



# コロナウイルス 終息を願って

● **武田 幸喜**

国労東日本本部 書記長



先日、三陸鉄道を訪ねる機会がありました。昨年来、予定されていた取り組みですが、コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令される中で、計画が幾度となく延期され、中止も考えられていました。しかし、コロナウイルス感染が落ち着きを見せてきたこと。参加者が2回のワクチン接種を終えたことと参加者数を絞ったことなど、感染予防の徹底を図ることを条件に、震災からの復興を中心に見ていくことになったのです。

参加者は、交通運輸労働者を中心とした20名余り。当日のバスは、2席分を一人、マスクの着用、乗り降りする度にアルコール消毒を行うことで感染予防を行いながらの移動となりました。

三陸鉄道の宮古駅では車両庫と指令室の見学。説明してくれた方の話では、震災の次の日に線路を歩いている地元住民の方が多くいて、何としてもすぐに復旧しなければと、自衛隊に災害復旧を要請し、5日後に一部で運転再開されたことや、クウェートの支援により新しい車両が作られたことなど当時の状況を聞きながら改めて東日本大震災の状況が思い出されるものとなりました。

震災学習列車も、コロナ感染拡大により利用する方が激減し、そこでも、交通産業が大変厳しい状況になっていることも実感しました。震災学習列車の運行は1年以上ぶりで、少ない人数で恐縮しましたが、会

社全体で見送ってくれたことに、この取り組みに参加して良かったと感じていました。

一方、企画してくれた旅行会社の方の話では、2年前に入社してからコロナにより仕事が無くなり、今回の添乗の仕事が旅行業の初めての仕事であることが言われていました。最近までは、ワクチン接種の仕事をしていたとも言われていました。

私たちの仕事もコロナに大きく影響されており、史上最低の一時金となったことや定期昇給が半分になったことなど、本当にどうなってしまおうのかという不安の中で仕事をしなければならない状態となっています。

治療薬が12月には出される予定が言われていること、3回目のワクチン接種が行われることなどにより、これまでのような緊急事態宣言とならない事が想定されています。これでコロナが落ち着いたならば、これまで減額された分の復活を会社は決断してほしいものです。それこそが社員に対する本当の感謝であり、対応を求めるものです。

地元にはなくてはならない三陸鉄道。初めて旅行業の仕事を行い、仕事の楽しさを感じていた添乗員さん。改めて、公共交通の大切さ、仕事の大切さを教えられた今回の取り組みでした。

とにもかくにも、コロナが終息し、みんなが元の生活に戻れることを願ってやみません。



震災学習列車の様子